

## 食科協20周年をお祝いして



NPO 法人食品衛生科学情報交流協議会  
元理事 石井 健二

長引くコロナ禍などの困難を乗り越えて、食科協が無事20周年を迎えたこと、心からお祝いし、併せて、活動を牽引されてきた関係各位に深く敬意を表し、感謝申し上げます。

私は理事退任（2012年）の頃からほかの仕事も順次辞め、83才の今は、少し広めの貸農園での野菜作りを楽しむと共に、市民レベルの国際交流団体、フレンドシップフォーアの西東京クラブ会員として、長引くコロナ禍と混迷を深める国際情勢に頭を痛めつつ、出来る範囲での活動を続けています。理事退任以来、食科協には会員であること以外さしたるお手伝いが出来ず、心苦しいですが、折角の機会ですので、私が食科協に関わった背景・経緯を少々紹介し、協会のここ10年間の諸活動への感想の言葉を申し上げさせていただきます。

私はグローバルな食品企業の研究者として約10年研究に携わった後、品質保証部門に異動し、製品の安全性・有用性の試験研究、調査、活用、法規対応などに本社と米国ワシントンDC 駐在事務所で働きました。その後、縁あって、国連の食糧農業機関（FAO）の本部、ローマにおいて、短期間、コンサルタントとしてJECFA 食品添加物規格の総覧集編纂に従事し、国内外の規格関連の行政官並びに専門家との知己が出来ました。本社に戻って、ほどなく、今度は日本食品添加物協会（現在一般社団法人）に出向しました（常務理事、安全性、国際担当）。日添協では、食品添加物、特に、当時国内で利用が拡大、整備が望まれていた、天然由来の食品添加物について、当局と国立衛生試験所（当時名称）の先生方の指導の下、業界の協力・支援を得て、安全性データ、国際情報の収集・整備に従事しました。母社に続いて日添協も2002年に退職しました。退職を前に、現役の頃大変お世話になった、林裕造先生（食科協初代理事長、国衛試退職後北里大学ほかにお勤め）、また、コーデックス国際食品規格などで情報共有させていただいていた伊藤廉太郎様（食科協初代専務理事）から、食科協立上げのお話と参画のお誘いを頂き、趣旨に賛同し喜んで参加させて頂きました。力不足で期待された役目を十分に果たせたか疑問ですが、理事の9年は楽しい日々でした。

この10年間、食品表示基準の制定・一部改正のほか、食品事業者におけるHACCPに沿った衛生管理の制度化、食品用器具・容器包装の衛生規制の整備などを重要な食品衛生法の改正が公布・施行になりました。食科協は、これら新制度について、案段階から施行に至るまで、きめ細かく、行政のキーパーソンを招き、内容等をわかり易く解説頂くと共に、パブコメの機会を利用し、協議会の要望・意見も随時発信・提言しました。協議会独自テーマである食品安全ナビ検定クイズは、食品表示、HACCPなどについて追加作成、活用を図りました。コロナ禍で対面の会合が制限されるなか、オンライン業務も立派にこなされ。事務局PCへのウイルス感染対応、協議会Websiteの改版などIT関連もスキルある理事さんのご協力と、事務局の頑張りで乗り切って頂きました。正会員の減少、コロナ禍などで、会の収支バランスが厳しくなったタイミングで、会員さんから多額の寄付を頂戴したことは幸いでした。寄付下さった会員さんの親切に、この場をお借りし厚くお礼申し上げます。

今後は、創立 20 周年を機に定めた食科協コミットメントに沿い、コロナ禍で抑えざるを得なかった業務の再開を含めて、食科協の活動が社会にしっかり定着することを祈念し、併せて運営に携わって頂いている関係各位、会員各位のご健勝をお祈りします。